

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 65 2021年3月16日 JR東労組

21春闘回答ゾーン（3/16～18）に突入！

中央本部は、3月10日、申11号「賃金引き上げ等に関する申し入れ」について、組合員の「労働実感」「生活実感」の声をもとに第2回団体交渉を行ってきました。そして、安定した経営のためにたゆまぬ努力をしてきていることや、「変革2027」を担うことを通じて労働力を高め、生産性向上に向き合ってきた職場の現実などを訴えてきました。

- ◆ 医療職場では、院内感染・クラスターを発生させることなく最前線で担っている。社員の健康管理のみならず、地域医療の役割を果たすべく日々奮闘している。
- ◆ 2月13日の地震発生後、お客さま案内や早期復旧を目指して各系統の組合員が取り組んだ。急遽発生した事象への対応をするなどの奮闘がある。東日本大震災の経験を活かした対応であり、経験を積み重ねてきたからこそだ。
- ◆ 3両編成以上のワンマン運転が拡大されている中、働き方も変化せざるを得ないことへの不安があるが、施策に向き合い努力し、労働力の価値を高めている。
- ◆ 新たに示された2025年度、営業収益3兆円を超える目標を実現するのは、組合員・社員1人ひとりの力だ！



私たちの求めた3点

雇用確保について

第2回交渉における会社回答

就業規則上、有期雇用ではなく、定年までの無期雇用である。雇用については今までと変わるものではない。

定期昇給確保（昇給係数4）について

定期昇給は様々な考慮要素を加味しながら総合的に判断する。人事賃金制度の見直し時に労使で議論を行ってきた。経験年数も考慮する一つの要素。今期は大変厳しい状況である。係数は4以内と定めていることを踏まえながら、現状厳しい経営環境、先行き・見えない部分の見通し、黒字に向けた社員の様々な取り組みの努力を勘案しながら判断する。

ベア6,000円要求について

- 生産性向上の配分もあるが、社員の頑張りも必要である。それに伴う設備投資も必要である。全て社員ではなく、生産性向上するために何が必要なのか、総合的に勘案する。コロナ禍の状況の中で最大限生産性向上に1人ひとりが取り組んでいることについては、感謝申し上げる。評価はしているが、厳しい経営環境の中で、どう配分するか慎重に判断をしなければいけない。
- かつてない厳しい業績動向で、今回の基準内賃金は令和3年度の経営を見なければいけないことは致し方ない。黒字を目標にするのではなく、持続的成長に向けて行っていく。慎重に現実に踏まえて、検討した上で早期合意したい。

中央本部は、今後も組合員のために奮闘していきます！